



アスパラガスの作業通路にあったスギナが見事に枯れた。おかげで人件費が削減できたよ。

福島県会津坂下町 谷地生産組合 佐藤 憲治組合長(写真左)、佐藤 光江さん(写真中央)、アスパラガス部会 佐藤 勝一部会長(写真右)

平成11年に、集落の生産農家8戸で設立された谷地生産組合。水稲、麦、アスパラガスの3つの生産部会を持ち、アスパラガス(グリーンタワー)1ha、水稲32ha、小麦2.5ha作付。



食害や腐敗を招く害虫を断つために。スギナなどの雑草防除が重要な課題。

谷地生産組合が8年前から作付を開始したアスパラガスは、「甘くてとても美味しい」と地元でも評判です。収穫は4月下旬から10月上旬まで毎日続きますが、ピークは5月のGWごろ。圃場横の直売所では、午前中に150キロのアスパラガスが飛びように売れていくのだとか。

そんな谷地生産組合が抱える課題は、圃場まわりや作業通路・畦間の雑草。とりわけスギナには手を焼いていらっしゃいます。「雑草は害虫のすみかになるでしょ。カスミカメムシはカスリ状の食害痕が残るし、ネギアザミウマの食害は雨が降ると菌が入って腐敗しちゃう。だから除草作業は大事なんだ」と語るのは、同生産組合のアスパラガス生産部の佐藤勝一部会長。3年前から非選択性除草剤を使用するようになりましたが、効果がいまひとつなこともあり、シルバー人材を雇用して手作業で除草しているといいます。

手を焼いていたスギナを一掃。他の難防除雑草にも効果が発現!?

同生産組合では今年、スギナ除草にタッチダウンiQを導入。春に12.5倍液を10aあたり25L、圃場の作業通路に試験散布しました。

「スギナが見事に枯れたよ。今までの除草剤じゃなかなか枯れてくれなかったし、うね間にもまけるから助かるね」と佐藤部会長。

今回の除草で意外だったのが、スギナとともにびこっていた、他の難防除雑草にまで、除草効果が現れたこと。

「4年前からキレハイヌガラシがはびこるようになってね。この雑草、根っこが地下でつながっていて、排土・培土のときに根っこが切れてそこから増殖するらしいんだ。それがきれいに枯れたわけ」と佐藤部会長は振り返ります。

おかげで今年はシルバー人材の人件費が大幅に削減できた、と佐藤部会長。今後は、散布する濃度を段階的に薄めていき、除草効果とコストのバランスを見極めていきたい、と意欲満々です。

 タッチダウンiQ®

syngenta.

シンジェンタ ジャパン株式会社

〒104-6021 東京都中央区晴海1-8-10 オフィスタワー-X 21階
<http://www.syngenta.co.jp>

農業をご使用の際は、ご購入先、または当社ウェブサイトなどで最新の登録内容をご確認ください。

®はシンジェンタ社の登録商標 TMはシンジェンタ社の商標

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●薬剤は小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器、空袋等は圃場などに放置せず適切に処理してください。

※2009年1月20日現在の情報です。

TM